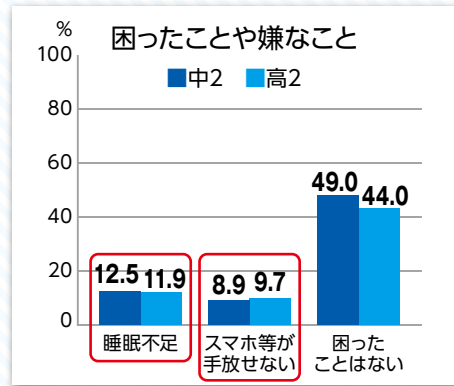
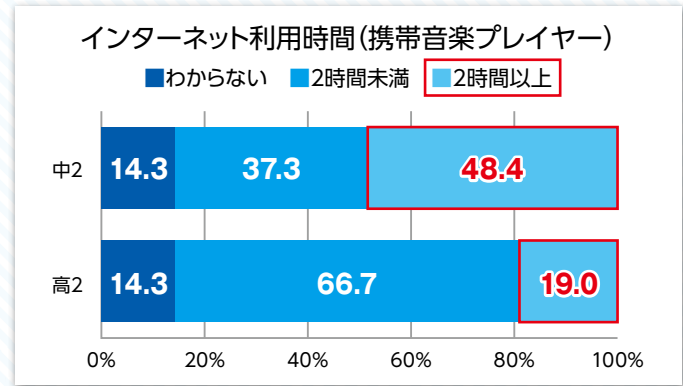
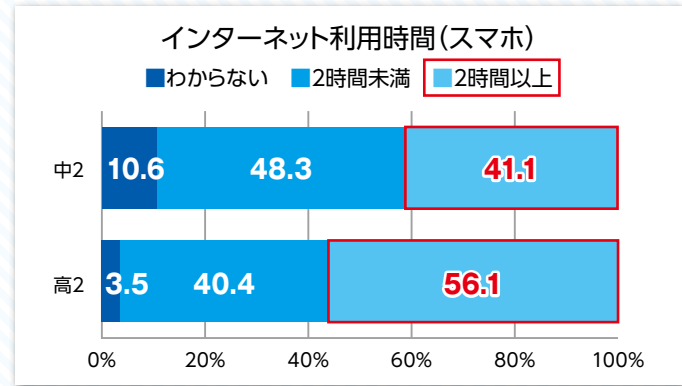


ネット依存・ゲーム依存に注意!!

スマートフォンを利用している中高生で、平日2時間以上インターネットを利用している高校生は約56%、中学生は約40%という結果が出ています。また、携帯音楽プレーヤーを利用している中学生の約半数が平日2時間以上インターネットを利用しています。そして、長時間利用することで「睡眠不足になった」「スマホ等が手放せない」と感じている中高生が約10%います。(H27「インターネット利用に関するアンケート」鳥取県教育委員会)

夏休みなどの長期休業で、インターネットやゲームの利用時間が長くなり、生活習慣が乱れることがあります。インターネットの利用を自分の気持ちで止めることのできない「ネット依存・ゲーム依存」にまで発展し、夏休み明けに学校に行けなくなる青少年が増えています。



依存にならないために・・・ 》 家庭でインターネットのルールを作って守りながら使うことが大切です。夏休みを前に、家庭でしっかり話し合しましょう。

メディア21:00運動が始まっています

鳥取県の子もたちには21時以降は友だちを巻き込むようなLINE(ライン)やメール、ゲームを止めて、相手の時間を尊重しようというメディア21:00運動が鳥取県PTA協議会の提案で始まっています。ケータイやスマホを持たない選択拒否も含め、ネットやゲームのルールを子どもと保護者で話し合うことが大切です。

最新のインターネット事情をわかりやすくお話しする「鳥取県ケータイ・インターネット教育推進員」を保護者や親子対象の講演会に派遣しています。(費用は無料です)

【申込先】
NPO法人 こども未来ネットワーク
電話 0858 (22) 1960 FAX 0858 (27) 0271
Eメール: media@kodomomirai.kirara.st

ゲーム機や音楽プレーヤーにはペアレンタルコントロール機能が、使用制限を設定することができます。

- ゲームソフトの使用制限(ソフトの年齢制限)
 - コミュニケーション制限(見知らぬ人との出会いを防ぐ)
 - インターネットの閲覧制限
 - プレジットカードの利用制限 など
- 鳥取県民チャンネルコンテンツ協議会の動画コンテンツで設定方法を見ることができます

鳥取県民チャンネル 動画 検索

問合せ先 県教委社会教育課 電話 0857(26)7943 FAX 0857(26)8175

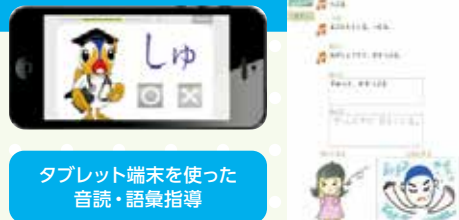
発達障がい児童生徒等支援事業 ～ひらがなを流暢に読む力を育てるために～

鳥取市(平成26年度から)及び倉吉市(平成27年度から)において、小学校低学年のうちにひらがなを流暢に読み進めることを目指して、読み書きのつまずきへの早期発見・早期支援の取組を行っています。

- ★鳥取市及び倉吉市の全小学校の1年生全児童に対して行っています。
- ★学校の取組をサポートする「発達障がい支援アドバイザー」を配置しています。
- ★「T式ひらがな音読支援」「多層指導モデルMIM」を活用しています。

T式ひらがな音読支援とは

ひらがなをどの程度、正確に、速く読むことができるのかを評価し、一定基準をクリアしなかった児童にタブレット端末や文字カード等を使い、文字の読み指導、語彙を増やす指導等を段階的に行います。

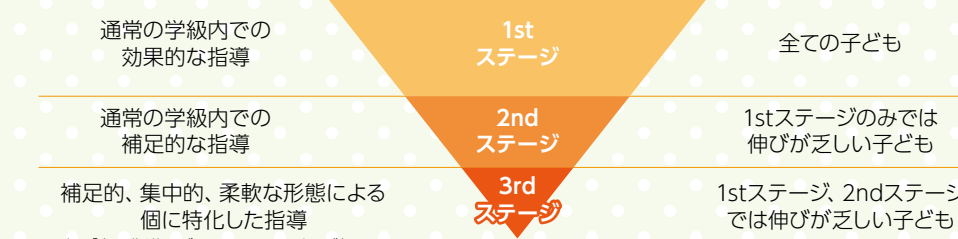


多層指導モデルMIMとは

一斉指導の中で、絵カードや音読集などを使いながらひらがなの音を手拍子して表す動作化と視覚化を通して、ひらがなを正しく読むコツを学習します。



多層指導モデルMIMの概要図



問合せ先 県教委特別支援教育課 電話 0857(26)7598 FAX 0857(26)8101

ちづの食 再発見

学校給食における地産物の活用は、安全な食の提供だけでなく、地域の特色や食文化について理解を深め、食べ物や生産者に対する感謝の心を育む食育としての役割を果たしています。

新しい地元産食材の開拓に取り組んでいる、智頭町の学校給食を紹介します。

智頭農林高校生が育てた野菜の活用

町内に農林高校があるという利点を生かし、智頭農林高等学校の生徒が栽培した農作物を、学校給食に活用しました。じゃがいも、とうもろこしなどおなじみの野菜も、生産者や生産過程等を知ることにより、地域の良さを五感で学ぶ「生きた教材」になります。「高校生が育てた野菜だ」と、いつもより給食がおいしく感じる」と、子どもたちは給食を味わっていただきました。



問合せ先 県教委体育保健課 電話 0857-26-7527 FAX 0857-26-7542

鳥取西高等学校 グローバルリーダーの育成

鳥取西高校は、平成27年度から平成31年度までの5年間にわたり、文部科学省のスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を受けました。

本校では、「地域・社会とつながり新しい価値を創造するグローバルリーダーの育成」を構想名として、社会に貢献できる創造性豊かな人材を育成する教育に取り組んでいます。地域が抱える課題と、世界が直面している課題とをつなぐ視点を持ち、年齢や国籍、文化や宗教の異なる人々とコミュニケーションを取りながら、それらを解決する方法を思索し、新たな価値を見出したり、提言をしたりすることのできる人材を育てることを目指しています。

本校の取組において大きな柱となるのが、協調型プロジェクト学習「思索と表現」です。

習「思索と表現」であり、1年生はクラス単位で、2・3年生は学年縦割りの班で実施しています。

2・3年生の課題研究では、課題解決の糸口を見出すために、鳥取大学の先生や地元企業の方々に指導助言を仰いだり、タブレット端末を使った街中でのインタビュー調査や地元企業を訪問するなど、積極的に校外に向かい分析や研究を進めています。研究の成果は、7月下旬にポスターセッションを行い広く公開します。

1年生は、研究を進める上で必要な基礎的能力である、発想力や論理的・批判的思考力を養う学習をしたり、フィールドワークを通して、地域の課題解決方法を提案したりする学習を行っています。

シリーズ 県立高校の取組



iPadを使った「思索と表現」課題解決学習

新しい特産品「ルバーブ」の活用

智頭町の新しい特産品として注目されているルバーブ。ジャムとして学校給食に提供するとともに、写真入りの資料や校内放送により紹介しました。ルバーブを食べるのは初めてという子どもも多く、ジャムになるめずらしい野菜の登場に、興味をもちながら楽しくいただきました。

今回は、9月の学校給食に登場する予定です。



問合せ先 県立鳥取西高校 電話 0857-22-8281 FAX 0857-22-7324

シリーズ 鳥取県のエキスパート教員

鳥取県では、優れた教育実践を行っている教員を「エキスパート教員」として認定し、教職員全体の指導力向上を図っています。

今回は、鳥取県立鳥取西高等学校の佐々木努教諭(認定分野:理科)にお話を伺いました。

教科書の中では化学反応は起こらない | 見て・感じる事の大切さ

最近の化学の教科書は、カラー写真が豊富で実験をしなくても色や変化を学習できるようになっています。ところで、水素は酸素と混合し点火すると爆発的に水に変化します(化学式: 2H₂ + O₂ → 2H₂O)。知識として習得するのは簡単ですが、実際に水素と酸素を2:1で混ぜて点火すると紙コップなら天井に当たるくらいの衝撃と爆音があります。

「教科書の中では化学反応は起こらない」これが私の信念です。何事も体験し、分かっているつもりにも常に新しい発見が隠れています。実際に行う事の大切さを常に伝えられるように授業を工夫しています。



環境は自分で作る

転動するたびに最初にする事は薬品の整理と器具の補充です。悲しい事に高校の化学は、全国的に見ても実験をしない傾向があります。「準備・片付けが大変」「薬品の管理が大変」「実験をしても学習の効果は変わらない」...

「環境は自分で作る」ものだと思います。高価な実験器具はなくてもホームセンターや百円均一は、化学ネタの宝島(宝箱)です。実験書・実験器具などを財産として残し、若い教員の力になれるよう努めています。

自分を磨き発信する

数年前に国際化学オリンピック日本代表オブザーバーとしてワシントンDCに行ってきました。高知県での出前授業、山口大学農学部サイエンスリーダーズキャンプアドバイザー...、常に新しいものにチャレンジし、それを鳥取県内・外に発信する事が大切だと思います。

生徒達にも「科学の甲子園」「化学グランプリ」「メタンハイドレート発掘技術コンテスト」「各種学会の研究発表会」...、外部との交流に積極的に参加しよう働き、多くの生徒が全国的に活躍してくれています。まずは教員が行動し、生徒を外の世界に導いていきたいと考えています。

問合せ先 県教委高等学校課 電話 0857(26)7917 FAX 0857(26)0408

シリーズ プロ(文化財主事)が教える文化遺産のツボ!

第22回 新発見!弥生時代の銅剣に「サメ」の絵

今年2月、鳥取県立博物館に所蔵されている銅剣にサメの絵が見つかったことが話題になりました。弥生時代の銅剣に絵が描かれることは珍しく、特に、製造後に絵を描いたものは、全国でも初めての例です。

銅剣にサメの絵が描かれていることは、鳥取県立古文書館県史編さん室が鳥取県の歴史をまとめた「新鳥取県史」にこの銅剣を紹介するために、奈良文化財研究所という専門機関に依頼し調査された際、分かりました。銅剣とは、今から約2000年前の弥生時代のマツリ(儀式)の道具のひとつです。当時描かれた絵には、右手に武器と左手に盾を持つ人物や2個の銅鐸のようなものをつり下げた木などがあり、マツリの様子を表していると言われています。そのことから、銅剣や銅鐸といった青銅の道具を使ってムラの繁栄や食物の豊作を祈願していたと考えられます。

また、弥生時代に描かれる生き物のモデルは、シカ、サギ、カエルなどといった田んぼに現れる生き物で、食物の豊作をイメージさせ

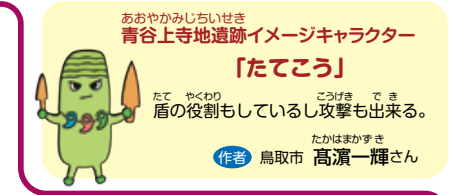
るものが普通です。サメの絵は、島根県から兵庫県までの日本海沿岸でしか発見されていませんし、今回の銅剣を含めて現在確認されている13点の出土品のうち、なんと11点が鳥取県で見つかったのです! 鳥取県周辺に住んでいた弥生人たちは、マツリの道具にサメの絵を描くことで、とても地域色の強い儀式を行っていたと考えられます。

海の中で暮らす生命力あふれるサメを選んで描いた人々は、海のかかわりがとても深い暮らしをしており、サメの生命力にあやかりたい思いがあったと想像できますが、どのような儀式を行っていたのかは、まだ謎のままです。

この銅剣は、現在、鳥取県立博物館に展示されており、他にも弥生時代のマツリの道具を見ることができます。まだ本物を見たことがない人は、ぜひ、博物館に足を運び、当時の様子を想像してみてください!



文化財主事 森藤 徳子



問合せ先 県教委文化財課 電話 0857(26)7934 FAX0857(26)8128
鳥取県の文化財情報 HP(とっとり文化財ナビ) http://db.pref.tottori.jp/bunkazainavi/navi/index.htm